

令和7年度

支え合うまちくるめ コミュニケーションプログラム

提案募集説明資料

健康福祉部 地域福祉課

はじめに

「支え合うところあふれるまち」は、行政や専門家だけではつくれない。

暑い日にシルバーカーを押して歩く隣の家のおばあちゃん、家から出て来なくなった幼馴染、いつも同じ服を着ている近所の子ども一。

普段の暮らしの中で、心がちくっとする瞬間があっても、「きっと支援する制度があるはず」「家族がなんとかするだろう」と心に蓋をした経験はないでしょうか。

あるいは、「子どもが不登校になったらどうしよう」「退職後は何を生きがいに暮らそうか」そんな漠然とした不安に蓋をして、何食わぬ顔で毎日を送っている人もいるかもしれません。

その心の蓋をはずす”きっかけ“があれば、自分と同じように悩んでいる、このまちで共に暮らす誰かの困りごとに、また、自分のちょっとした行動がその助けになる可能性に、気づく人が増えるのではないのでしょうか。

自分の中にある、モヤモヤや不安に向き合って、実感を持って初めて、地域での支え合いや「地域共生社会」が自分ごとになるのかもしれません。

目次

- 1 事業実施の背景
- 2 事業でめざすもの
- 3 業務委託の概要
- 4 募集スケジュール
- 5 問い合わせ先

※ 参考資料

1 事業実施の背景

地域社会を取り巻く環境の変化の中で、家庭内での支え合いや地域のつながりは弱まっています。困りごとを抱えた人は地域の中で孤立し、課題がより複雑化・複合化しています。

市では、市社会福祉協議会と共に『くるめ支え合うプラン（R2～R7）』を策定し、地域福祉の推進に取り組んでいます。また、令和3年度からは「重層的支援体制整備事業」を開始し、相談支援機関や各種市民団体などと協働しながら包括的な支援体制の構築を進めています。

しかしながら、プランに掲げる成果指標は目標に至っておらず、次期プランにおいては、地域で暮らす住民一人ひとりへの訴求力（関心をひきつけ行動を促す力）を持った、これまでにないアプローチが必要です。

『くるめ支え合うプラン』成果指標の実績

成果指標	目標項目	基準	R7目標	中間実績
全体	地域での支え合いや助け合いが充実していると感じる市民の割合	64.1% (R1調査)	70.0%	60.1% (R5調査)
地域をともに創る人を育む	助けを求めることができる人がいる市民の割合	81.3% (R1調査)	87.0%	82.8% (R4調査)
地域をともに創る人を育む	困っている人の相談にのることができる市民の割合	23.7% (R1調査)	29.0%	23.8% (R4調査)

【市民意識調査】

課題の複雑化・複合化

足腰が弱くなって
ごみを集積場に
持って行けない

猫を多頭飼育
している

子どもが長年
引きこもっている

例えば、ごみ屋敷の背景



心身の状態が
良くないが病院に
かかっていない

経済的に困窮
している

近所に相談できる人
がいない

2 事業でめざすもの

この事業では、これまでのアプローチではつながれていない、支え合う地域づくりへの参加可能性を持つ住民（潜在層）にアプローチすることを目指します。

また、そのアプローチは、『くるめ支え合うプラン』の目指す理念を共有し、プラン策定と相乗効果を生みながら、次期プランの期間にわたって住民への訴求力を持つものとなることを期待しています。

なお、事業の実施にあたっては、知ることによって生まれる実感を大切に考えています。楽しさや興味の延長で「福祉」に出会ってもらうことで、自分の不安が軽くなったり、自分が持っている可能性や、地域で支え合うまちづくりに参加する楽しさに気付いてもらう視点を重視します。

事業のゴールイメージ

知る > 実感する > 自分ごとになる

『支え合いの芽』
が発芽

キーワード

#共感 #楽しさ #気軽さ #ゆるさ #決めすぎなさ #あそび #偶発性

3 業務委託の概要

本業務では、これまでの手法ではつながっていないターゲット層へのアプローチを可能にするコンセプト設計、手法の具体化、場づくりまで、一貫した軸を通したコミュニケーションプログラムの作成・実施を求めます。企画提案の内容は大きく以下の4点です。詳細は「実施要項」等参照。

- (1) コンセプト設計
- (2) 理解しやすい企画
- (3) やりたいことが生まれるきっかけ
- (4) アプローチの手法

4 募集スケジュール



詳細は、「実施要項」参照。

5 問い合わせ先

久留米市 健康福祉部 地域福祉課（担当：淵上、永田）

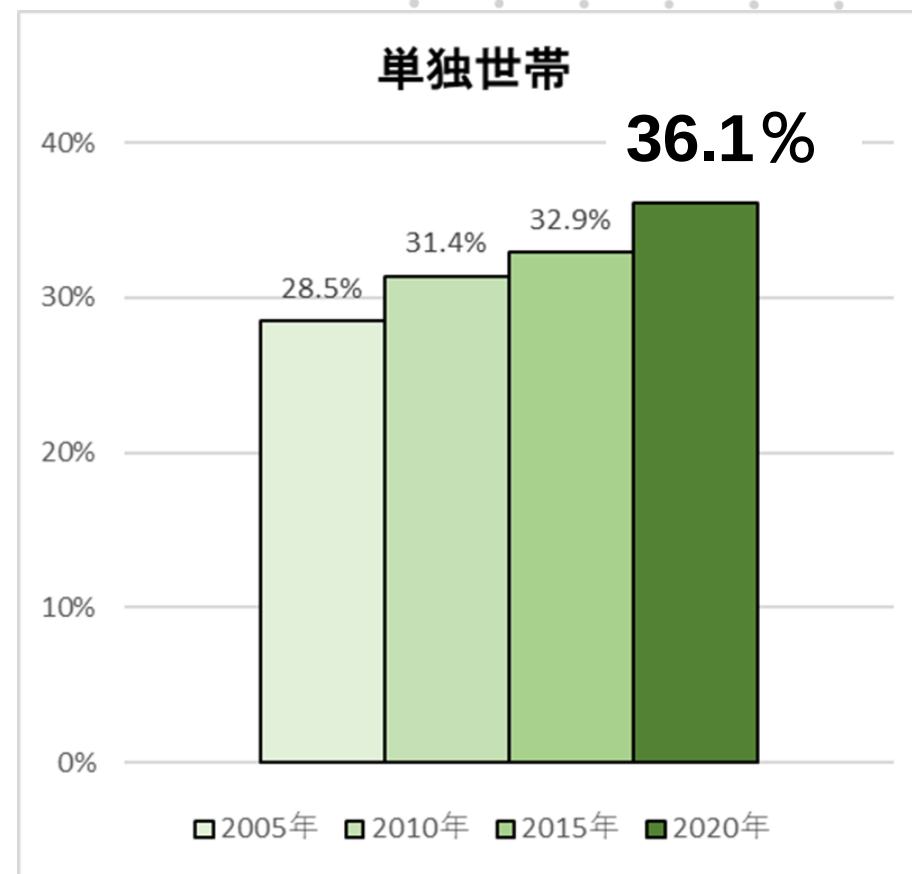
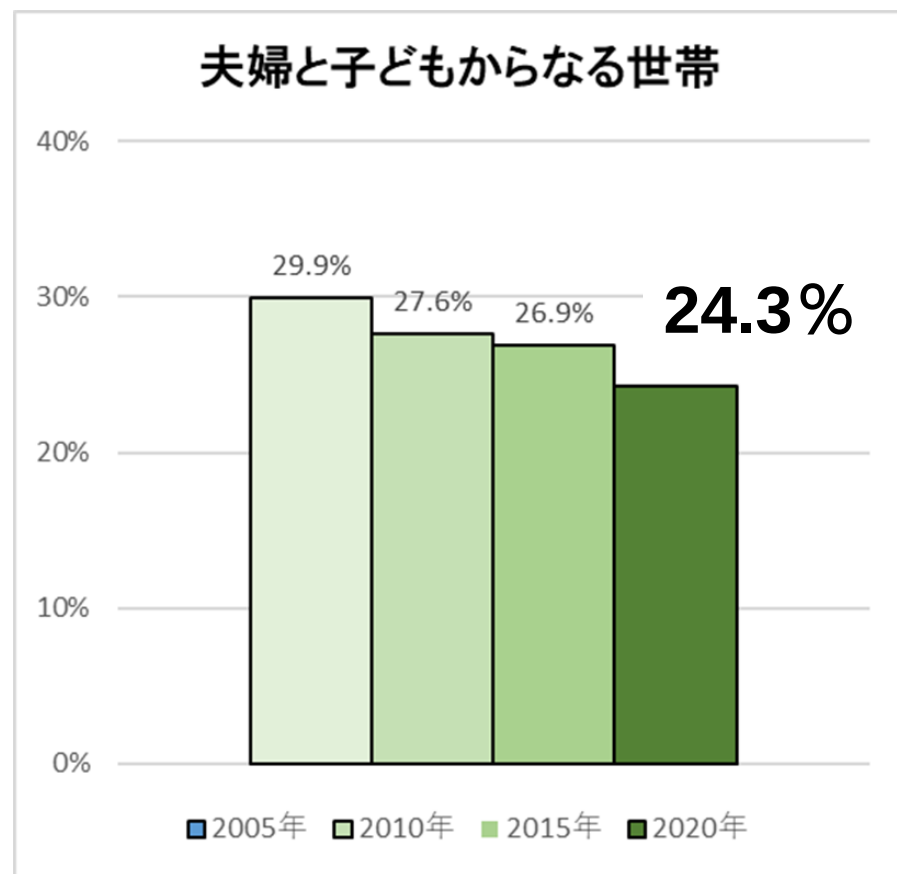
電話：0942-30-9175 FAX：0942-30-9752

E-mail：chifuku@city.kurume.lg.jp

いわゆる「行政」、いわゆる「福祉」らしくない、
既成概念にとらわれない提案をお待ちしています。

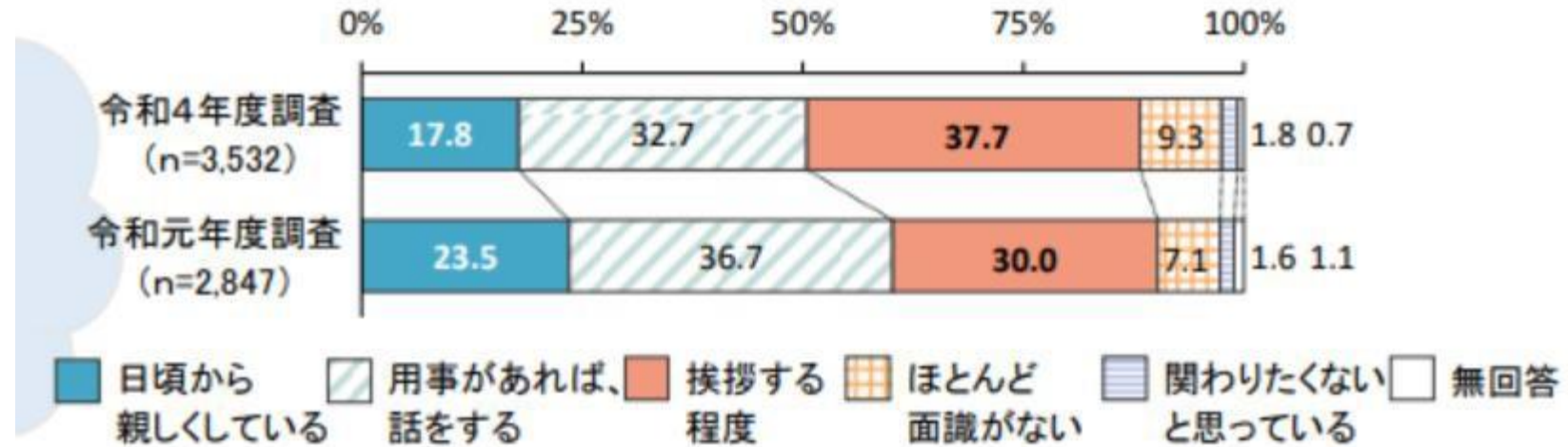
※参考資料

①久留米市の世帯の家族類型別割合

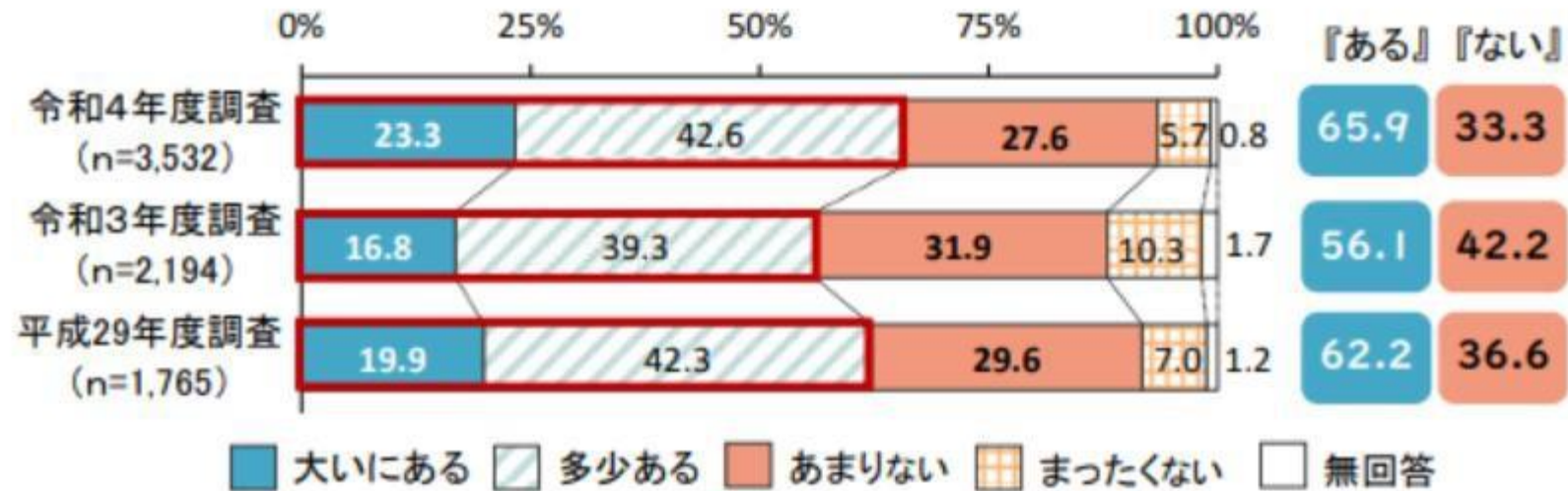


【国勢調査報告】

②久留米市の近所付き合い（R 4調査時）

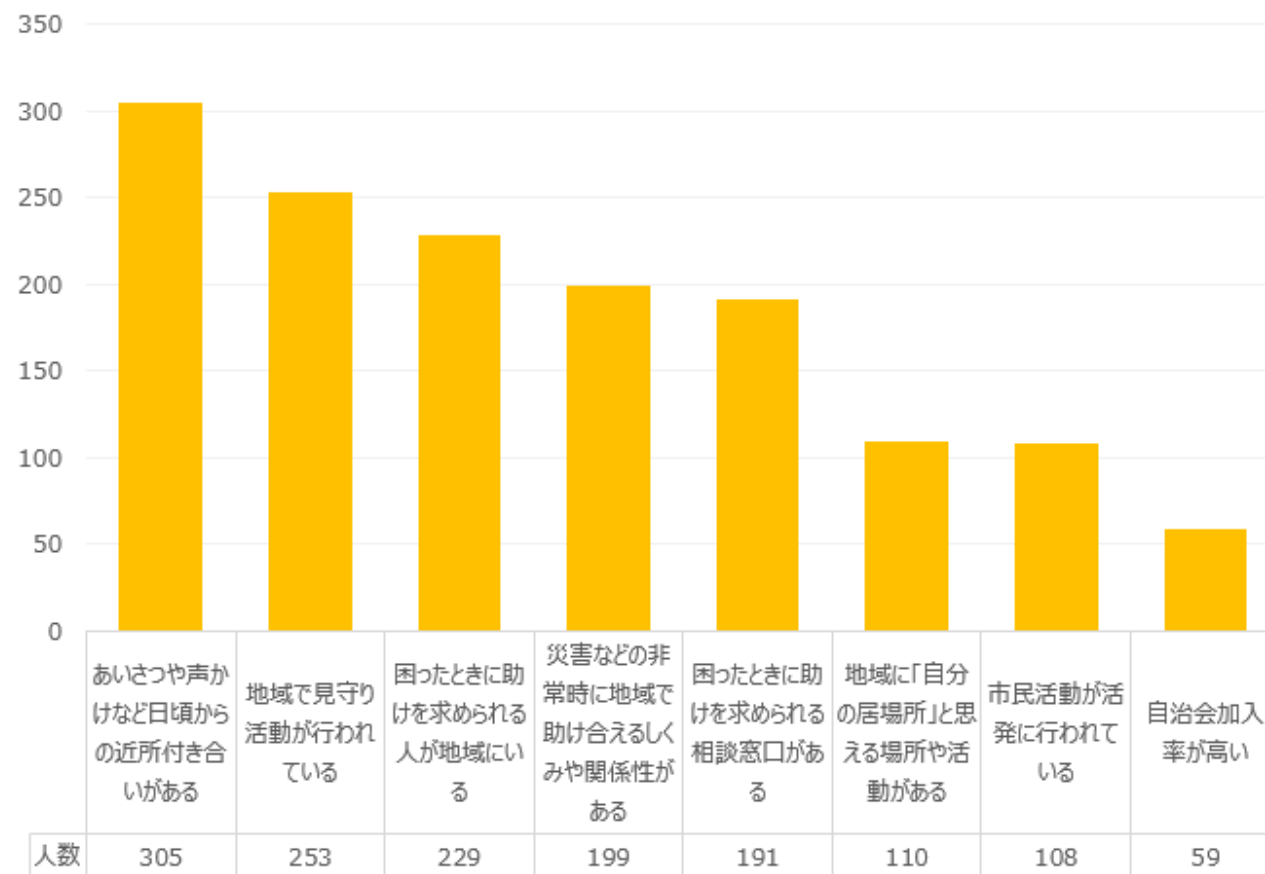


③不安や悩み、ストレスの状況（R 4調査時）



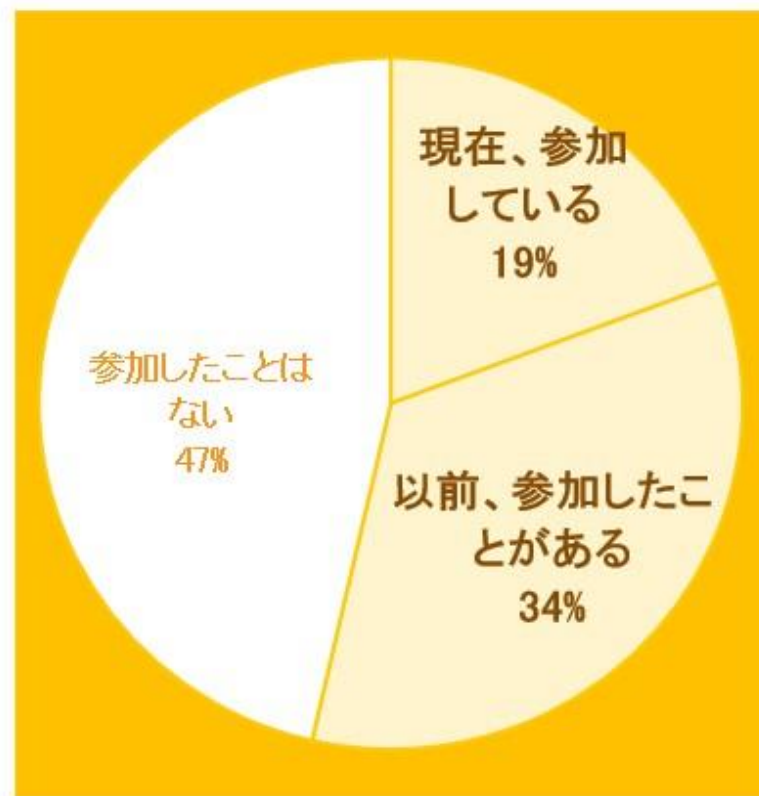
③「地域で支え合いや助け合いが充実しているまち」とはどんなまちか

「支え合いや助け合いが充実しているまち」とは



④-1 地域での活動への参加について（参加状況）

地域の活動やボランティア活動などへの参加状況



参加したきっかけ

第1位 地域や近所の人に誘われた (49.0%)

第2位 家族や友人に誘われた (28.5%)

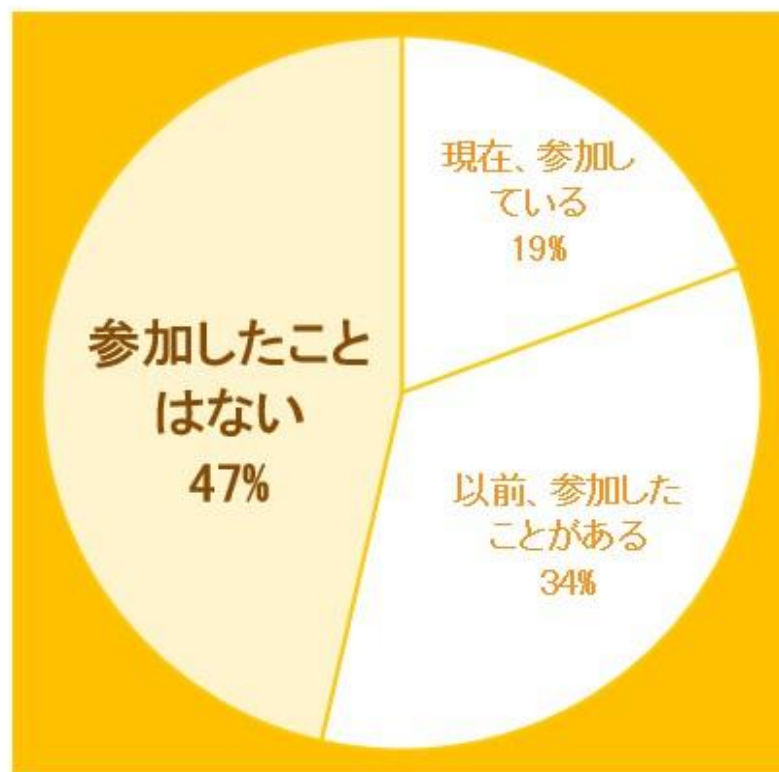
第3位 自ら興味を持って (17.6%)

イベント等に参加して興味を持った (14.2%)
SNS等で興味を持った (10.9%)

その他、「地域の役員で強制的に」という人や「子ども会がきっかけ」という人もいる

④-2 地域での活動への参加について（参加したことがない理由）

地域の活動やボランティア活動などへの参加状況



参加したことがない理由

第1位 時間に余裕がない
(54.6%)

第2位 きっかけがなかった
(49.3%)

第3位 一人では参加しづらい
(37.2%)

第4位 情報を知らない
(35.7%)

興味関心が低い(9.2%)

関わりたくない(4.3%)は少数派

参加したくても、「外出が難しい」

「移動手段がない」という声も